様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　６ 月 ２５ 日現在

機関番号：３４４２８
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０２７１０

研究課題名（和文）インドネシア、スラウェシ島中・南部の非フィリピン系の言語群に対する重点的研究

研究課題名（英文）Intensive Research on the Non-Filipino Language Groups in the Central and Southern Parts of Sulawesi Island of Indonesia

研究代表者
山口　真佐夫（Yamaguchi, Masao）

摂南大学・外国語学部・教授

研究者番号：００１９１２３９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究はインドネシア共和国、スラウェシ島に分布する非フィリピン系の言語を特に系統上の問題から研究を行ったものである。フィリピン系の言語と非フィリピン系の言語の境界は、スラウェシ島北部のゴロンタロ・モンゴンドウ語群とトミニ・トリトリ語群の間に引かれていた。本研究が始まってから、SILの基準が変更されたため、本研究は期間を一年延長し、全スラウェシの語群を対象に、非フィリピン系とフィリピン系の弁別基準を研究することとなった。研究成果は研究代表者の国際学会等での発表、論文の執筆、現地研究者との論集の編纂、対象言語の書誌の編纂を通じて発表された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　これまでスラウェシ島の言語については、個別言語研究か一語群についてのものであった。しかし本研究はスラウェシに存在する非フィリピン系の語群の系統関係を明らかにするのみならず、スラウェシに存在する10語群中フィリピン系とされることがあったサンギル語群、ミナハサ語群、ゴロンタロ・モンゴンドウ語群についても研究を行った。そして、現地研究者との論集の編纂、インドネシアで行われた国際学会を通して現地研究者に成果の還元を行うことができた。また編纂した書誌により最新のインドネシアにおける研究成果を他の研究者と共有することができた。

研究成果の概要（英文）：This research was conducted to solve the problems of the genetic relationships among the non-Filipino Languages spoken in Sulawesi Island, Indonesia. The boundary line between the Filipino and the non-Filipino Languages was set between the language groups of Gorontalo-Mongondow and Tomini-Tolitoli. Since the SIL standard was changed after this research started, we extended the study period for one year, and reviewed the distinctive criteria of Filipino Languages and non-Filipino Languages for all the language groups in Sulawesi Island. The research results were published by the grant recipient in presentations at international conferences, submissions of paper, editing a collection of papers with researchers from Indonesia, and compiling a bibliography of the related literature.

研究分野：言語学

キーワード：スラウェシの言語　非フィリピン系の言語　言語の系統　インドネシアの地方語

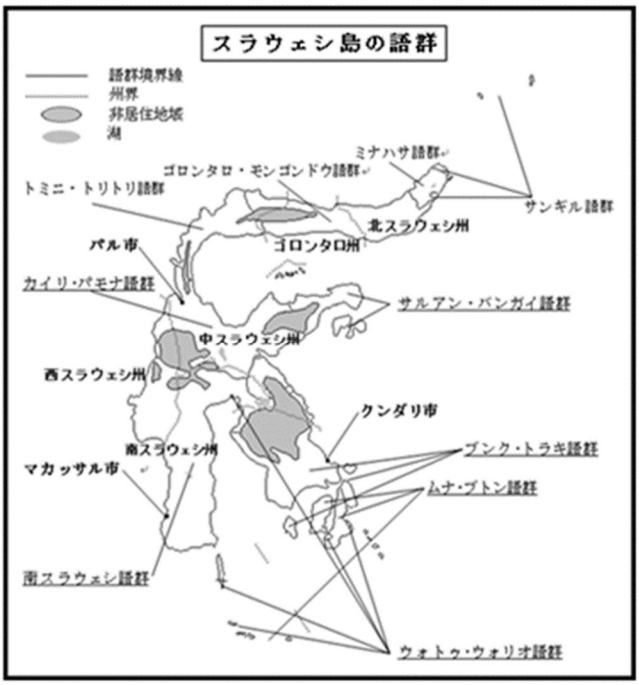
※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

インドネシア共和国のスラウェシ島とその周辺の島（以後スラウェシ）には、オーストロネシア語族、マラヨ・ポリネシア語派に属する 10 語群の言語、マレー語の変種、移住者の言語が国語であるインドネシア語とともに使われている。SIL の研究では 100 以上の地域語が存在するとされている。

この島の言語学上の重要性は、北部地域にフィリピン系と非フィリピン系の境界線があることで、このことはインドネシアがオランダの植民地であった頃から、N. Adriani、S.J. Esser 等のオランダ人研究者が言及していた。その後もスラウェシ島北部に境界線があるとすることに変わりはないが、境界線をどこに引くかについては研究者によって相違があった。



世界の言語を語彙統計学を用いて分類している SIL は、2009 年以来スラウェシの言語を 10 語群に分け、北部の３語群フィリピン系の他の７語群を非フィリピン系のとしてきた。フィリピン系の語群とされたのは、サンギル語群、ミナハサ語群、ゴロンタロ・モンゴンドウ語群である。

研究代表者はこれまでに主に南スラウェシ語群、カイリ・パモナ語群、ブンク・トラキ語群、ムナ・ブトン語群、ウォトゥ・ウォリオ語群を研究してきたが、本研究でこれまで研究してきた語群にトミニ・トリトリ語群、サルアン・バンガイ語群を加え、非フィリピン系の語群を重点的に研究を行うこととした。

本研究で用いる非フィリピン系の言語資料を収集するために南スラウェシ（西スラウェシも管轄）、中スラウェシ、東南スラウェシの言語研究所および現地大学の研究協力者と連絡を取った。また、非フィリピン系とフィリピン系の弁別基準を確定するために、ゴロンタロ・モンゴンドウ語群が分布するゴロンタロ州の言語研究所も訪問する計画を立てた。以上のような現地研究機関との協力体制を構築することが本研究の第一歩となった。

なお、本研究開始後の 2017 年から SIL がフィリピン系と非フィリピン系について新たな見解を出したため、研究計画を１年延長し、３年目を再検討に充て、４年目に北スラウェシ州の言語研究所を訪れ資料収集を行い、フィリピン系と非フィリピン系についても研究を行った。

２．研究の目的

本研究の目的は非フィリピン系の７語群の共通祖語から現在の７語群までの分化の過程を解明するものである。語彙統計学のような数理的に系統関係を決めてしまう方法であれば、基礎語彙を 100～200 個ほど集めれば大まかな結果を出すことはできる。しかし正確な系統を決定するには、音韻体系の把握、より多くの語彙の収集、そして比較言語学の最重要項目である音韻対応の確立を行わなくてはならない。

本研究においては新たなより多くの研究資料の収集し、比較言語学の手法に基づき系統関係を明らかにすることにあるが、いくつかの副次的な成果を得ることも目的としている。主なものは、現地研究者との論集を出版することにより現地研究者の研究意欲向上が期待できること。また、ジャカルタおよびスラウェシの各研究所を訪問しスラウェシの地域語研究の最新の書誌を編纂することも目的である。

３．研究の方法

本研究は新規に入手した資料を加え、非フィリピン系の語群の系統を解明することにある。そのために計画的に資料収集、成果発表を行わなければならない。そのために以下のような資料収集、研究を行った。

第１年度　ジャカルタ、マカッサル、ゴロンタロ
第２年度　ジャカルタ、マカッサル、パル、ルウック
第３年度　日本にてこれまでの研究の総括と今後の研究の計画を立てる。
第４年度　ジャカルタ、マカッサル、クンダリ、マナド（北スラウェシ州州都）

第１年度はジャカルタとスラウェシの地域語研究の拠点マカッサル、フィリピン系と非フィリピン系の弁別基準を確定するためにゴロンタロで資料収集を行う。

第２年度　ジャカルタ、マカッサル、パル、ルウックで資料収集を行う。本年度は特に中スラ

ウェシ州の言語資料収集を行った。
　第３年度はこれまでの研究を総括し、１年延長した最終年度の研究計画を立てる。
　第４年度はジャカルタとスラウェシの地域語研究の拠点マカッサル、さらにサンギル語群とミナハサ語群の資料収集を行う。本年度は特に東南スラウェシ州と北スラウェシ州の言語資料収集を行った。
　以上の訪問した各地域で収集した資料を基に日本、およびインドネシアで研究成果を発表した。

４．研究成果
　研究成果は以下のようにまとめることができる
　第１年度は本科研とも関連するサルアン・バンガイ語群についての論文が学会誌に掲載される。また、ゴロンタロ・モンゴンドウ語群について学会発表を行う。（論文１本、国内学会発表１回）

　第２年度は昨年学会発表したゴロンタロ・モンゴンドウ語群について論文を発表する収集資料に基づき、同語群の音韻体系を以下のようにまとめることができた。

ゴロンタロ下位語群																			
ゴロンタロ語		p	b		t	d	k	g	ʔ	s	h	c	j	w	y		l	r	m	n	n̪	ŋ
スワワ語		p	b		t	d	k	g	ʔ	s	h		j	w	y		l	r	m	n	ɲ	ŋ
ボランゴ語	アティンゴラ方言	p	b		t	d	k	g	ʔ	s	h	c	j	w	y	ʎ	l	r	m	n	ɲ	ŋ
	ウキ方言	p	b		t	d	k	g	ʔ	s	h			w	y		l	r	m	n		ŋ
ブオル語		*p*	*b*	v	*t*	*d*	*k*	*g*		*s*	h	c	j	w	y	ʎ	*l*	*r*	*m*	*n*	ɲ	*ŋ*
モンゴンドウ下位語群																						
モンゴンドウ語		*p*	*b*		*t*	*d*	*k*	*g*	ʔ	*s*	h	t͡s	*c*	*j*	w	y	*l*	ɫ	*r*	*m*	*n*	*ŋ*
ポノサカン語		*p*	b		*t*	d	*k*	g	*ʔ*	*s*	h		*c*	*j*	w	y	*l*	ɫ	*r*	*m*	*n*	*ŋ*

　上記論文以外に南スラウェシの地域語教育に基づいてスラウェシの地域語の将来について発表を行った。（論文１本、国内学会発表１回）
　第３年度は昨年度に発表を行った地域語教育に関する論文の執筆、９月にはマカッカルで行われた国際地域語学会で発表、３月には音韻対応に基づくフィリピン系と非フィリピン系の弁別基準についての学会発表を行った。
　主に夏期休業中を中心に、SIL の発表したフィリピン系と非フィリピン系についての新たな見解に対して、日本にて今後の研究の計画を立てた。（論文１本、国際学会発表１回、国内学会発表１回）
　第４年度は昨年立てた計画に基づき夏期休業中に北スラウェシ州の言語研究所を訪問し、サンギル語群、ミナハサ語群についての資料収集を行う。その後クンダリを訪れ資料収集を行い、また東南スラウェシの地域語に関する国際学会で発表を行った。
　上記以外に現地研究者との２巻本の論集、全スラウェシのインドネシアにおける言語研究の書誌を出版した。前年度発表した音韻対応に基づくフィリピン系と非フィリピン系の弁別基準についての論文も学術雑誌に掲載される。さらに現在論文を執筆中である。（編著書２点、論文１本、国際学会１回）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 山口真佐夫	４．巻 50
２．論文標題 インドネシア共和国、スラウェシ島中・南部における地域語教育－歴史、現状、将来－	５．発行年 2018年
３．雑誌名 言語文化学会論集	６．最初と最後の頁 45-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山口真佐夫	４．巻 48号
２．論文標題 インドネシア、スラウェシ島のゴロンタロ・モンゴンドウ語群と他の語群との関係	５．発行年 2017年
３．雑誌名 言語文化学会論集	６．最初と最後の頁 301-326
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山口真佐夫	４．巻 46号
２．論文標題 インドネシア、スラウェシ島のサルアン・バンガイ語群－系統上の位置づけ－	５．発行年 2016年
３．雑誌名 言語文化学会論集	６．最初と最後の頁 77-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山口真佐夫	４．巻 53
２．論文標題 音韻対応に基づくインドネシア、スラウェシ島におけるフィリピン系語群と非フィリピン系語群	５．発行年 2020年
３．雑誌名 言語文化学会論集	６．最初と最後の頁 71-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　2件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 Masao Yamaguchi
２．発表標題 Representasi Penggunaan Bahasa-Bahasa Daerah Sulawesi Selatan sebagai Penguatan Budaya Lokal
３．学会等名 Kongres Internasional III Bahasa-bahasa Daerah Sulawesi Selatan 24-27 September 2018（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 山口真佐夫
２．発表標題 音韻対応に基づいたインドネシア、スラウェシ島におけるフィリピン系語群と非フィリピン系語群
３．学会等名 言語文化学会・第32回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 山口真佐夫
２．発表標題 インドネシア共和国、スラウェシ島中南部における地域語教育
３．学会等名 言語文化学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 山口真佐夫
２．発表標題 スラウェシ島のゴロンタロ・モンゴンドウ語群と他の語群との関係
３．学会等名 言語文化学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Masao Yamaguchi
２．発表標題 Genealogi Bahasa-bahasa Daerah Sulawesi Tenggara dalam Penelitian Bahasa Daerah di Sulawesi
３．学会等名 Kongres Internasional III Bahasa-bahasa Daerah Sulawesi Tenggara 2-4 September 2019 di Kendari（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計2件

１．著者名 Masao Yamaguchi, et al. (ed)	４．発行年 2019年
２．出版社 Hokuto Publishing Inc.	５．総ページ数 vi + 205, xi + 117
３．書名 Penelitian Bahasa Daerah Pulau Sulawesi Terkini I, II	

１．著者名 Masao Yamaguchi	４．発行年 2020年
２．出版社 Hokuto Publishing Inc.	５．総ページ数 xxiv + 278
３．書名 Penelitian Bahasa Daerah Pulau Sulawesi di Indonesia Edisi Diperbaharui	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	アドリ (Adri)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	ファジリン　ハシナ (Fajrin Hasina)		
研究協力者	シャイルッディン　ヌルハヤティ (Syairuddin Nurhayati)		
研究協力者	ザイナブ (Zainab)		
研究協力者	カルサナ　デニ (Karsana Deni)		
研究協力者	ファティナ　シティ (Fatinah Siti)		
研究協力者	リタ　フェリ (Rita Ferry)		
研究協力者	ナシル　ムハンマッド (Nasir Muh.)		
研究協力者	アー・デー　フィルマン (A.D. Firman)		

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	ビオプシ　プジ　ハストゥティ　ヘクサ (Biopsi Puji Hastuti Heksa)		
研究協力者	サフィトゥリ　ハナン　サンドラ (Saftri Hanan Sandra)		
研究協力者	バダラ　アリス (Badara Aris)		
研究協力者	アリ　イブラヒム　グフロン (Ali Ibrahim Gufran)		
研究協力者	マルヤニ　イェイェン (Maryani Yeyen)		
研究協力者	ムスタキム (Mustakim)		
研究協力者	スビヤント　バンバン (Subiyanto Bambang)		
研究協力者	山口　玲子 (Yamaguchi Reiko)		